



光栄の森

2019年10月 毎月1日発行 第134号
発行者 光栄プロテック 中川

10月に向けて

代表取締役 三田雅憲

秋分の日が過ぎて、朝、夕が少し涼しくなり、田んぼのあぜには悲願花が咲いてきている今日この頃、皆さんはいかがお過ごしですか？

今月は、松下幸之助さんの指導者の条件の中から「好きになる」の節をご紹介します。

漢の大帝国も建国以来200年近く経って政治が乱れました。これを再興したのが、光武帝である。光武帝は、仕事（政務）に対して実に熱心で朝早くから日暮れまで没頭し、さらに夜中まで家臣たちと勉強や討論などに時を過ごすということもしばしばあった。

それで、健康を気遣った皇太子がほどほどにするよういさめたところ「私は楽しんでやっているのだからいくらやっても疲れることがない。」と答えたという。諺にも「好きこそものの上手になれ」という言葉があるが、この好きということは何をやるにしても一番大切だと思う。好きでないことをいくらやってもその道で成功するのは難しいのではないだろうか。芸術家でも運動選手でも好きであればこそ激しい練習、厳しい訓練を苦とせず精進努力するわけである。

それでも一流となり成功することはなかなか難しい。まして好きでもない人がやって、それでうまくいくわけがない。指導者（コーチか上司）でも結局同じことである。指導者としての仕事が好きであるということが一番大切だと思う。

大体、指導者として人の上に立つということは決して楽なことではない。昔から「人を使うは苦を使う」という言葉もある。全部の人が自分の言うことを素直に聞いてこちらの思い通りに動いてくれるならいいが、そんな人ばかりではない。文句を言う人もあれば、こちらの言うことと反対に動く人もある。そういう姿で仕事をして行くのだからそれだけでもずいぶん気の疲れることである。

まして、いろいろな困難が次々と生じ、それに的確に対処していくといったことは大変なことである。だから、それを大変だな、苦労だなと思うような人は指導者にはなれない。

そういう他人から見れば大変な苦労でも本人は楽しくて仕方がない。疲れを知らない。言い換えればそのことが好きであるということが必要なのである。

指導者はまず、自分が指導者としての仕事が好きかどうかを自問自答することが大事だと思う。

と述べられています。指導者に限らず自分の与えられた仕事が好きであるということがまずもって上達していく所以でないかと思えます。

皆さんもまず、仕事を好きになっていきましょう。仕事はこれから正月及び来年オリンピックまでは色々なものが出てきます。

しかし、その後に本当に実力が試されます。仕事が少なくなってきた時に選ばれる会社になる為にも今から皆さんが品質を高め、納期を順守して行って下さい。コストはそこに付いてきますので、営業諸君も決して安売りせず頑張って下さい。

また、来年オープンする本社社員食堂のパスを裏面に載せてあります。本社での取り組みは将来の千葉での取り組みにもなってきますので、本社・千葉共に頑張って色々な新たなチャレンジが実現するように頑張りましょう。

10月より秋田よりT君が新しいメンバーとして加入してくれます。右も左もわからないと思います。社員皆で暖かく育てて下さい。よろしくお祈りします。